（３）二俣瓜生田官軍砲台跡・二俣古閑官軍砲台跡

１）整備方針

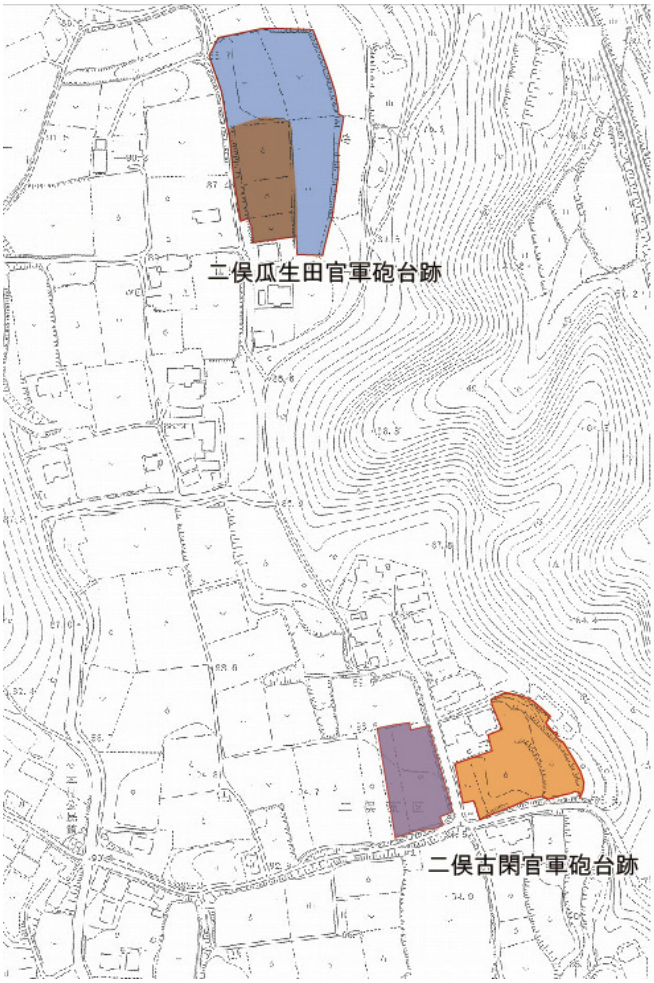
二俣瓜生田官軍砲台跡・二俣古閑官軍砲台跡の整備方針を以下の表に示す。本遺跡の整備テーマを「田原坂砲撃最前線の地」とし、本遺跡の戦闘の状況がわかる整備を行う。

整備項目	整備方針
遺構保存	・大砲轍の遺構は保存のために現状（盛土・張芝）のまま保存し、その上部に遺構の復元を行う（土系舗装等により遺構復元を検討）。(①) ・両砲台跡の全域に対して適切な量の盛土及びグランドカバー（芝等）により遺構を保存する。(②)
動線	・二俣瓜生田官軍砲台跡に隣接する駐車場に総合案内を設置し、二俣瓜生田官軍砲台跡から二俣古閑官軍砲台跡へ徒歩でアクセスするルートを推奨する。 【バリアフリー・安全性への配慮】 ・歩行上の明るさや安全性に配慮するため、二俣瓜生田官軍砲台跡と二俣古閑官軍砲台跡の間の竹林の間伐を定期的に行う（伐採した竹材については大砲のレプリカや土留めの材料等に活用する）。(③) ・砲台跡間を結ぶ道路は、狭小な生活道で道路脇の崖面が土壁で崩落している箇所も見受けられるため、歩行者の安全を考慮し土留め等の措置を検討する。また、東側崖面は急であるため、歩行者保護用の柵等の設置も検討する。(④)
地形造成	・原地形を保つことを基本とする。
修景及び植栽（個別に植栽計画を立てる）	・二俣台地東側を覆う竹林等が田原坂方向の眺望の阻害となっているため、樹木の整理を行う。(⑤)
案内･解説施設	・景観に配慮した統一デザインのものを設置する。
管理施設及び便益施設	・現在のところ管理施設を設ける予定はないが、今後管理の必要性に応じて検討する。 ・二俣瓜生田砲台跡に隣接する駐車場（指定地外）には、防災時に対応できる施設の設置を検討する（四阿、防災倉庫等）。(⑥) ・その他便益施設については利用者の利用状況をみながら、景観に配慮したものを設置する。
公開活用及びそのための施設に関する計画	・砲台跡には大砲等のレプリカやサウンド AR 等の手法を用いて、当時の状況を実感できる整備を行う。 ・現存、地域にあるもの（竹林等）を最大限活かし、史跡に関連したイベントを行い公開活用に努める。 ・周辺や他の遺跡からの視認性向上のために旗を設置する。

※表中の番号は、2）整備方針図に対応。

〈 参考資料 〉

保存活用計画では、下図のゾーニングにより地区ごとの整備方針をたてた。今回の整備計画はこれに基づくものである。

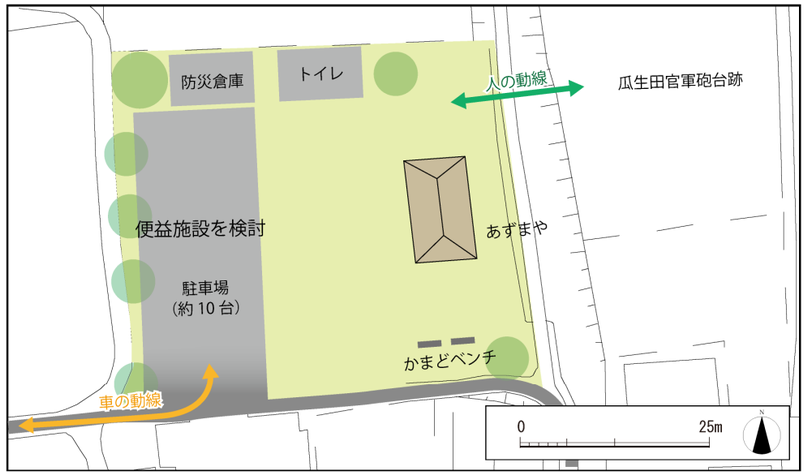


ゾーニング	説　明
一次地区	**現状保存･保存整備地区** 遺構、遺物が良好に保存されており、現状維持もしくは保護層等で保存すべき地区。
二次地区	**公開･活用整備地区** 史跡の理解のために、遺構表示や説明板等で史跡の特徴を示す等の整備が必要な地区。
三次地区	**景観保全地区** 従来の生業により景観を保全し、地下遺構や地形を保存していく地区。

図 73. 二俣瓜生田官軍砲台跡・二俣古閑官軍砲台跡ゾーニング図

2）整備方針図

■新設駐車場（史跡外事業）※現在整備中



・本史跡へは、車での移動がメインとなるため駐車場の整備がとても重要となる。また、災害時に防災拠点として活用できるものを配置する。

かまどベンチ

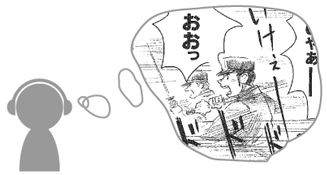
防災倉庫

■竹林

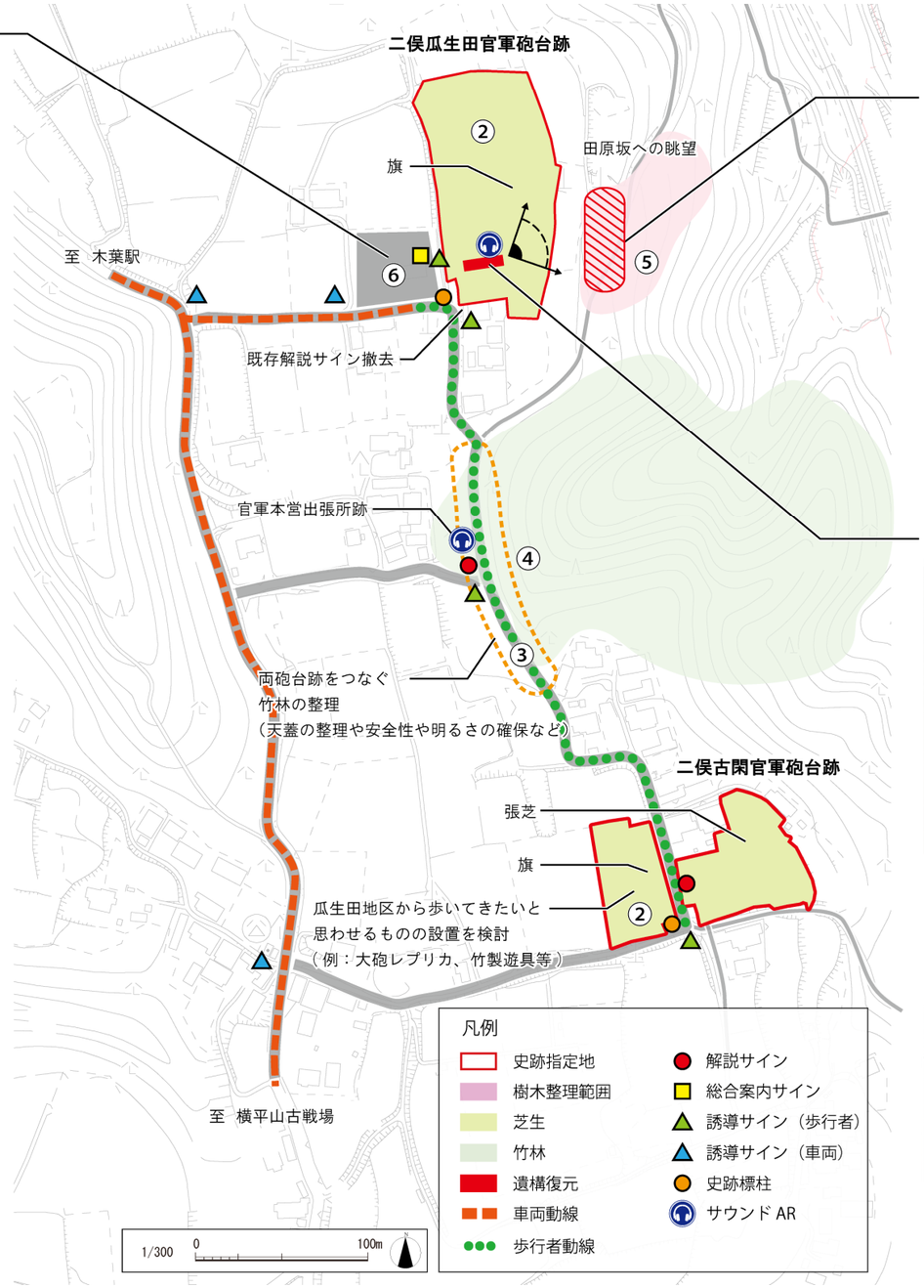
・竹林を間引くことで歩行者への安全性や景観に配慮する。

・東側崖面は急であるため、歩行者保護用の柵などの設置も検討する。

■サウンドＡＲ



・AR 映像では田原坂との戦いの様子を映し出し、サウンド AR では当時の怒号や大砲の音など音で臨場感を体感することができるもので来訪者の理解を深める。



■眺望

眺望を阻害している
樹木の伐採

・砲台跡には大砲などのレプリカやサウンド AR などの手法を用いて、当時の様子を実感できるよう整備する。

■砲台跡の復元

・サウンド AR などの手法を用いて、当時の様子を実感できるよう整備する。

■大砲レプリカ

・両砲台跡に、大砲のレプリカを設置し、当時の様子を実感できるようにする。

図 74.　二俣瓜生田官軍砲台跡・二俣古閑官軍砲台跡整備方針図

３）二俣瓜生田官軍砲台跡アイレベルパース

図 75. 二俣瓜生田官軍砲台跡アイレベルパース

（４）正念寺・高月官軍墓地・宇蘇浦官軍墓地

１）整備方針

正念寺・高月官軍墓地・宇蘇浦官軍墓地の整備方針を以下の表に示す。各遺跡のテーマを、正念寺：「日本赤十字社発祥のゆかりの寺」、高月官軍墓地：「西南戦争最大の官軍墓地」、宇蘇浦官軍墓地：「隠された官軍墓地」とし、各遺跡の意味あいを伝える整備を行う。

整備項目	整備方針
遺構保存	・山門及びそれに付随する石製階段は、現状のまま保存する。特に山門の柱部分には弾痕が残っているため、保存処理や保護について検討する。 ・説明板による表示や注意喚起で保存する対策をとる。 ・正念寺の境内については、仮埋葬地の痕跡が残っていることが考えられるため、可能な限り現状保存をお願いする。
動線	・駅前駐車場（役場駐車場はサブパーキング）を利用し、徒歩で回遊するルートを推奨する。 【バリアフリー・安全性への配慮】 ・寺院の協力を得て寺院駐車場への誘導も検討する。
地形造成	・原地形を保つことを基本とする。
修景及び植栽（個別に植栽計画策定予定）	・正念寺境内の大木は、樹齢が 400 年を超え、西南戦争当時から存在しているものもあるため、保護を図りながら解説板等にも掲載する。 ・木の根により遺構（墓石）がき損している箇所については伐採を検討する。
案内施設	・景観に配慮した統一デザインのものを設置する。 ・国道からの誘導を検討する。 ・フットパスルートを活用し、他の文化財と連携してルートを表示する。
管理施設及び便益施設	―
公開活用及びそのための施設に関する計画	・詳細な解説板を設置する。 ・山門銃弾痕を示す展示を行う。

〈 参考資料 〉

保存活用計画では、下図のゾーニングにより地区ごとの整備方針をたてた。今回の整備計画はこれに基づくものである。

ゾーニング	説　明
一次地区	**現状保存･保存整備地区** 遺構、遺物が良好に保存されており、現状維持もしくは保護層等で保存すべき地区。
二次地区	**公開･活用整備地区** 史跡の理解のために、遺構表示や説明板等で史跡の特徴を示す等の整備が必要な地区。
三次地区	**景観保全地区** 従来の生業により景観を保全し、地下遺構や地形を保存していく地区。

図 76. 正念寺・高月官軍墓地・宇蘇浦官軍墓地ゾーニング図

２）整備方針図

図 77. 正念寺・高月官軍墓地・宇蘇浦官軍墓地整備方針図